

視聴覚教育

No.32

発行日
62.5.20発行
岡崎市AVL
編集
広報委員会

森戸賞受賞について

現職教育視聴覚部長

野村 錠吉

森戸賞とは、松下視聴覚教育研究財団が設立されて、初代理事長を勤められた森戸辰男先生の偉業をしのび、全国の中から一団体のみ視聴覚教育推進に功労のあつた団体に贈られるものであります。

本年度は第二回目に当たり、岡崎市現職教育視聴覚部がその栄に浴しました。これは、視聴覚ライブラリーを中心として全市の各学校が長年にわたり、積極的に取り組んでいただけたおかげであります。市御当局のご指導とご援助並びに、指導に当たられた先輩各位に対し深く感謝申し上げるものであります。

本年度、井田・矢南・恵田と研究助成を受けました。これにより、各校が貴重な研究を推進されたことは、たいへん本年度、井田・矢南・恵田と研究助成を受けました。これにより、各校が貴重な研究を推進されたことは、たいへん尊いことだと思います。

本年度は、文部省学習情報課平川課長はじめ多数の来賓を迎えて、全国八十二校へ歎木理事長（元文部大臣）から助成が手渡されました。そのあと森戸先生の奥様より森戸賞が授与されました。

特筆すべきことは、全国助成の半数以上がコンピュータに関するものであつたことであります。これは、コンピュータが単体としてではなく、すべての機器を結合して働かせる中心機器であり、高度通信情報化社会の核をなすものと考えられていることであり、

文部省の力の入れ方にも、記念講演



この財団から、岡崎市は、五十七年度より大樹寺・広幡

細川・常南・山中・梅園・藤川・連尺・大門・本宿・福岡

小・矢北中・常中・美川・南中・六ツ美中・竜海と続き、

をされた大阪大学教授水越敏之先生のお話にもはつきりと

うかがえています。また、その実演にも、皆さん
が使ってみえる殆どの教育機器が、極めて有効にパソコン

に結合され、大きな効果と可能性を示すものであつたこと
であります。難しいと思いがちなコンピュータが技術の進
歩でどんどん手軽に使えるようになることを示すもので
あつたことを報告します。

●昭和六十二年度 視聴覚関係

研究会・研修会の概要

*確かな理論と優れた実践を積み上げるためにも
多くの先生方が参加されることを望みます。

・放送教育研究会全国大会	10月29日～30日	福井市
・学校視聴覚教育全国大会	11月14日～16日	名古屋市
・愛知県放送教育特別研究会	8月11日	一宮市
・愛知県学校視聴覚教育研究大会	11月6日	豊橋市
・三教研視聴覚部会自作研修会	8月10日	岡崎市
・松下財団授業改善研究会	6月23日	美川中

研究方針と組織決まり

【今年度の研究主題】

視聴覚教材・機材を生かした授業のあり方を追及しよう

【研究の重点】

- (1) パソコン機能の理解とその活用法の研究
- (2) 学習効果を高める放送学習の実践
- (3) 授業で生かせる自作視聴覚教材の製作とその活用
- (4) 視聴覚教室やアナライザ教室の総合的な活用
- (5) 双方向システム活用法の研究

【組織】

部長	野村 錆吉	(常磐東小長)
部長	山田 利一	(美川中長)
部長	杉崎 利兵衛	(六美中部小長)
指導員	白井 正壯	(常磐中部小長)
世話係	江坂 良夫	(岩津小)
ライブ	高木 和広	(美川中)
ラリー	桑木 富士子	(大樹寺小)
職員	市橋 章男	(城北中)
山内	宮田 典彦	(宮田中)
藤野	原田 平	(原田中)
覧	小川 加藤	(小川中)
規博	杉浦 修	(杉浦中)
哲也	平田 賛平	(常磐中)
美鈴	大門 中	(大門中)
(大門小)	規博	(規博中)
(城南小)	大門中	(大門中)